

令和2年10月1日からロタウイルスワクチンの定期接種が始まります。

ロタウイルスワクチンはロタウイルス胃腸炎の重症化を予防する生ワクチンで、飲むワクチンです。ロタウイルス胃腸炎は感染力が非常に強く、重症化した場合は脱水症状や脳や腎臓に影響を及ぼし、入院することもあります。接種することでロタウイルス胃腸炎の発症を7~8割減らし、入院するような重症化の予防ができます。生後すぐに感染する場合もあるため、早い時期にワクチンの接種を完了しましょう。

ロタウイルスワクチンは「ロタリックス」と「ロタテック」の2種類があり、効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なります。他のワクチンとのスケジュールなどを考慮し、医療機関と相談の上、ワクチンを選択して接種することをお勧めします。 ※ロタウイルス以外の原因による胃腸炎は予防できません。

予防接種のスケジュール

対象者

令和2年8月1日以降に生まれた方

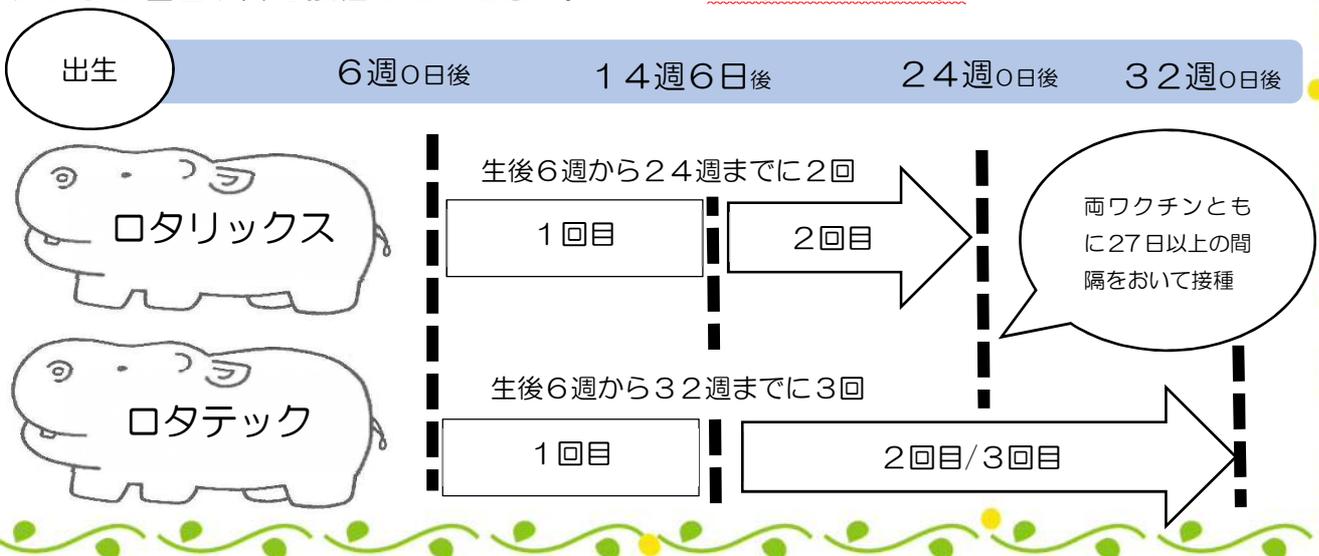
標準的接種年齢

初回接種は生後2か月から
生後14週6日まで

ワクチン毎の対象年齢・接種回数

原則、途中からワクチンの種類を変更することはできないため、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種してください。

※1回目の接種が出生15週0日以降の接種は安全性が確立されていないので、お勧めしません。



ロタウイルス胃腸炎はどんな病気？

ロタウイルス胃腸炎は、口から侵入したロタウイルスが腸管に感染して発症します。下痢や嘔吐の繰り返しが1週間程度続きます。感染力が非常に強く、手洗いや消毒などによる感染予防が難しいため、乳幼児のうちに、大半の子どもが感染します。

ワクチンを接種 できない場合

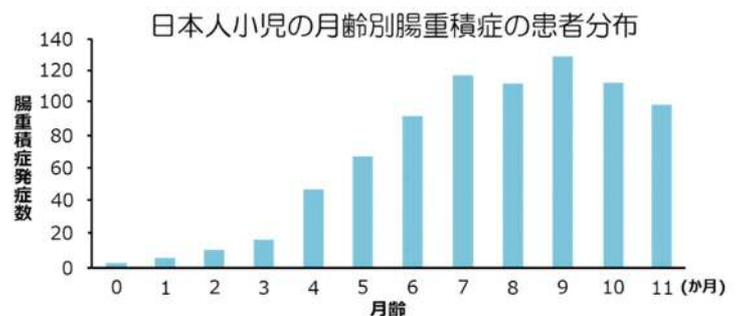
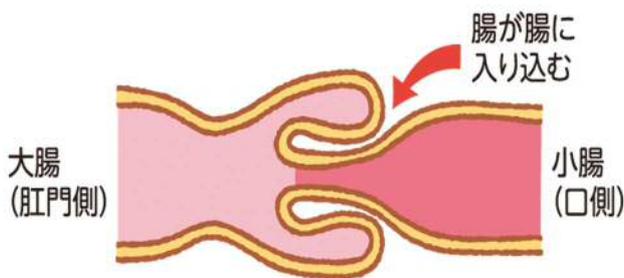
明らかに発熱（通常37.5℃以上）している方や重度の急性疾患にかかっている方、過去に同じワクチンで強いアレルギー反応が出た方は接種することができません。また、腸重積症の既往歴のある方、先天性消化管障がいのある方（その治療が完了した方は除く）、重症複合型免疫不全症の所見が認められる方も対象除外者となります。その他、接種の中止や延期をすることがよい場合もありますので、医師とご相談の上、接種ください。

ワクチンを接種する前

赤ちゃんがお腹いっぱいである時は、上手にワクチンが飲めないことがありますので、接種前30分ほどは授乳を控えることをお勧めします。なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再度接種する必要はありません。

ワクチンを接種した後 の注意点

接種直後は、医療機関で30分ほど様子を見てから帰宅してください。ワクチン接種後2週間ほどは、赤ちゃんの便の中に、ワクチンのウイルスが含まれることがあります。おむつ交換の後など、ていねいに手を洗ってください。また、ロタウイルスワクチンの副反応として、腸重積症があげられます。腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になることです（下左図）。0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しない場合も起こりうる病気であり、3～4か月頃から月齢の上昇に伴い、患者数が増加します（下右図）。そのため、早めに接種を開始し、完了させることが勧められています。



腸重積症は、手術が必要になることもありますが、発症後、早期に治療した場合は、大半が手術をせずに治療することができます。以下のような症状が一つでも現れたら、腸重積症が疑われますので、このような症状に気づいたら、すみやかに接種した医療機関を受診しましょう。

- 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
- 嘔吐を繰り返す
- ぐったりして顔色が悪くなる
- 血便がでる

また、このような症状以外にも熱、けいれんなど、異常を感じた場合は、すぐに医師の診察を受けてください。また、接種した医療機関とは別の医療機関を受診する場合は、このワクチンを接種したことを医師にお伝えください。